

^13
3223
50





五編



春水作
國芳畫

かなハ
大傷

五編上

永年二酉新板

嘉永 3223 50

假名讀

八犬傳

五編下

喜み作

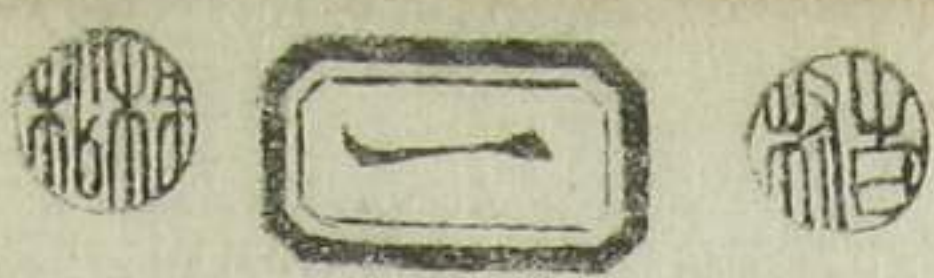
國芳畫

文溪堂



作者々々となくはんさう小言ふてかきこむこちや手習小
他の作意を見做して終る假名讀八犬傳の原本の
其の清書るまう推の実筆の拾ひがたもはりのりく
五帙小右やう左やう草稿の坂小車のおさ後とも油断
をさせぬ書房の催促基より作のいろはゆか白ひの
艶もるたののうらま習兒の戻る八房の梅を断まを
明白小條目はちぐぬ觀善徳悪者宦その気て以境
おろト筆けさたを故ッて記せ

嘉永二歳巳酉孟春







大山道策

グ妻

黒白

おのれ
能にあらる
釘や

阿は是非

大山道策

三

杉小打



大山道策

後妻



寂寞道人肩柳

寂寞道人

二



この物語は五編の
犬傳五編の
物語の
この物語は五編の
犬傳五編の
物語の

この物語は五編の
犬傳五編の
物語の
この物語は五編の
犬傳五編の
物語の

この物語は五編の
犬傳五編の
物語の
この物語は五編の
犬傳五編の
物語の

この物語は五編の
犬傳五編の
物語の
この物語は五編の
犬傳五編の
物語の

この物語は五編の
犬傳五編の
物語の

この物語は五編の
犬傳五編の
物語の

為永真水作
勇齋國芳画



六海上



嘉永三年國芳画



余。這策子小筆を採りて縮述するに既小六篇節婦濱路が傳よ及ひく。一
 息と抄りて。此婦や。虚中にあると云ふも。人情の起る処。勸懲のされざる。
 玄妙なる事とのとて。實小書中の貫目たる。就中信乃と哀別の條の下小
 原傳。吁。予もその未通女の。鷺鷥の。哀を。累ね。連理の。枕。並
 び。その情百年の夫婦小勝たり。余も小信乃の情小引られて。その心を
 動さむ。よくその情は。従ふ。男女別ある。村を。ふる。夫色。東。迷津。賢不
 肖無差別。之。江湖。許多の少年輩。下。さ。この岸小臨。の。溺。さ。る。と。ある。の。少
 然。う。依。今。の。義。夫。節。婦。あり。濱。路。が。恋。慕。と。樂。し。く。淫。せん。と。小。あ
 り。を。信。乃。の。嗟。嘆。の。悲。を。傷。ら。む。下。巻。と。曲。曲。が。自。評。も。ま。の。妙。え。介。う。後
 今。這。假。字。読。の。只。捷。経。の。旨。と。を。な。れ。バ。意。味。深。長。の。境。小。の。こ。も。を
 譬。言。の。書。を。閱。し。ゆ。り。ゆ。後。小。原。傳。を。読。の。り。咄。し。小。原。の。狂。言
 類。を。く。見。ゆ。る。と。く。ん。う。

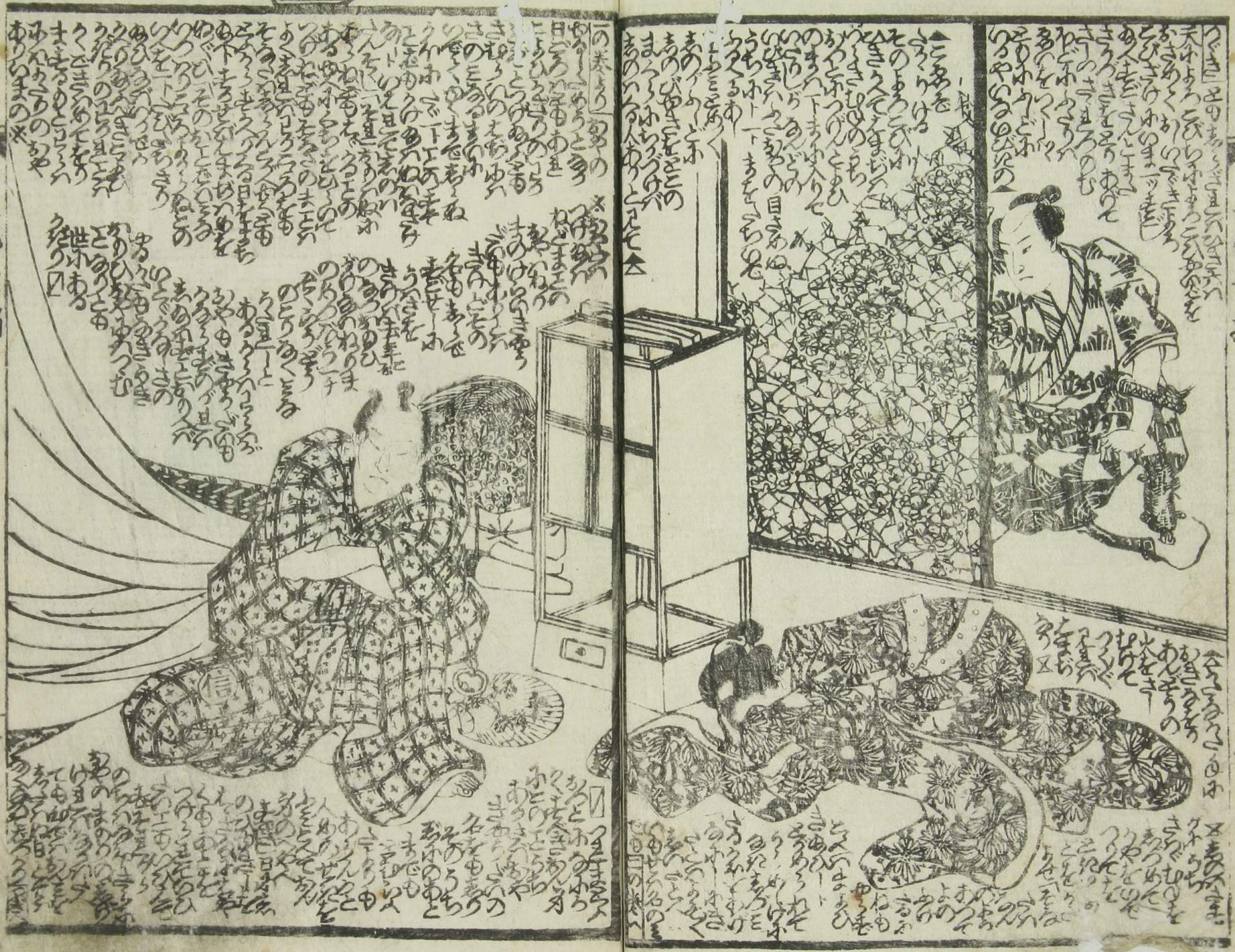
嘉永二年酉孟春發兌





一の巻より二巻の
 日よりのあつと多
 二つとつとつとつ
 三つとつとつとつ
 四つとつとつとつ
 五つとつとつとつ
 六つとつとつとつ
 七つとつとつとつ
 八つとつとつとつ
 九つとつとつとつ
 十つとつとつとつ
 十一つとつとつとつ
 十二つとつとつとつ
 十三つとつとつとつ
 十四つとつとつとつ
 十五つとつとつとつ
 十六つとつとつとつ
 十七つとつとつとつ
 十八つとつとつとつ
 十九つとつとつとつ
 二十つとつとつとつ

天のよりのあつと多
 日よりのあつと多
 二つとつとつとつ
 三つとつとつとつ
 四つとつとつとつ
 五つとつとつとつ
 六つとつとつとつ
 七つとつとつとつ
 八つとつとつとつ
 九つとつとつとつ
 十つとつとつとつ
 十一つとつとつとつ
 十二つとつとつとつ
 十三つとつとつとつ
 十四つとつとつとつ
 十五つとつとつとつ
 十六つとつとつとつ
 十七つとつとつとつ
 十八つとつとつとつ
 十九つとつとつとつ
 二十つとつとつとつ



一巻
 二巻

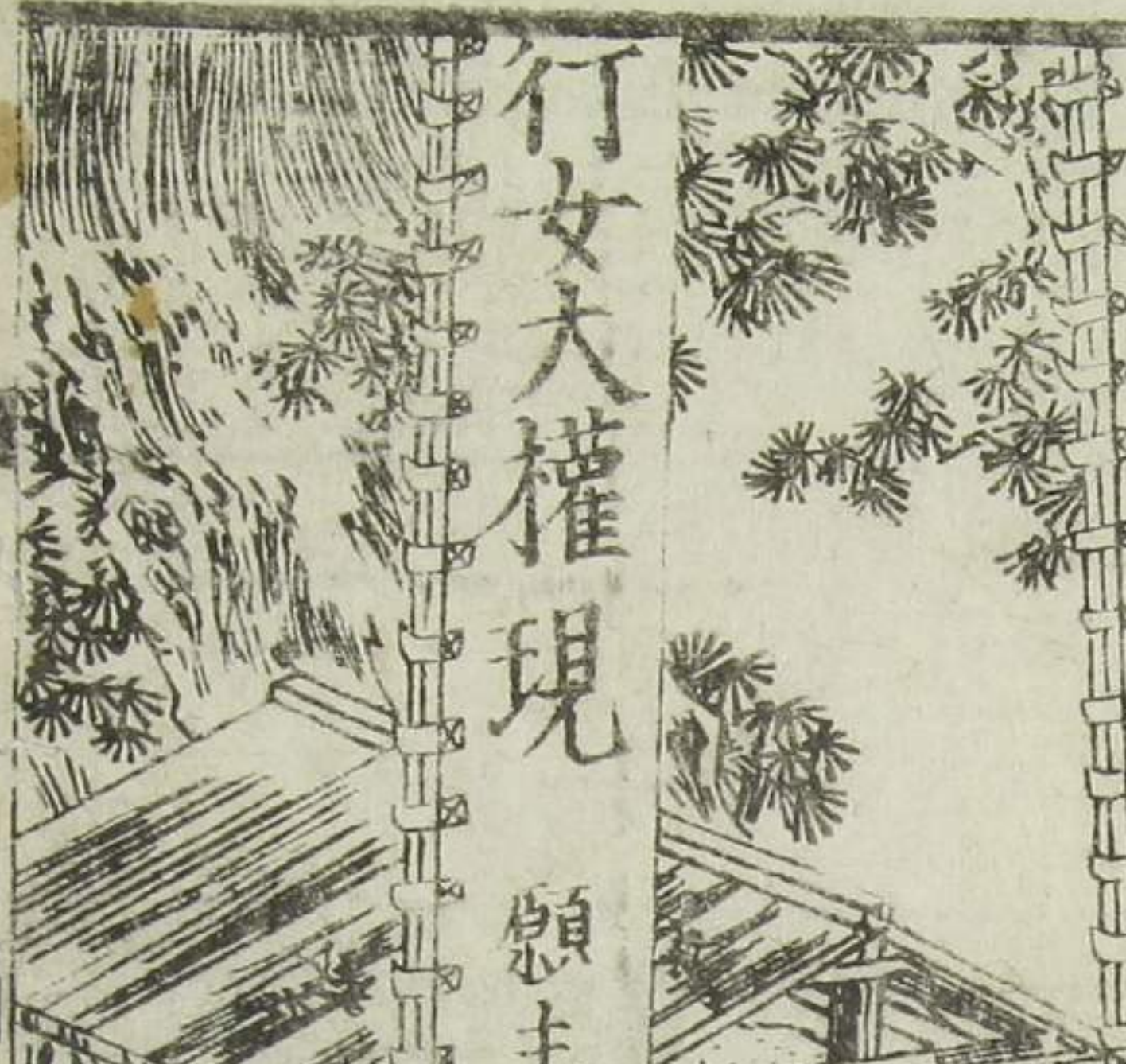
三巻
 四巻

この大権現の御尊に... 御尊の御姿を... 御尊の御心をお... 御尊の御徳を...



この御尊の御徳を... 御尊の御心をお... 御尊の御姿を... 御尊の御徳を...

行女大権現 願主



この御尊の御徳を... 御尊の御心をお... 御尊の御姿を... 御尊の御徳を...



この御尊の御徳を... 御尊の御心をお... 御尊の御姿を... 御尊の御徳を...

はばたき宿

大々寸

参講中

このつづを行女塚...
はまらふ人のあやう...
ままのひまのひま...

そのあやう...
ひまのあやう...
せうせうせう...
ぐんぐんぐん...

あまのあやう...
あまのあやう...
あまのあやう...



このあやう...
あまのあやう...
あまのあやう...

あまのあやう...
あまのあやう...
あまのあやう...

あまのあやう...
あまのあやう...
あまのあやう...





三つちのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく

とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく

とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく

とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく

とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく

とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく
とせのちをわくわく



八代傳六編



十一

十一

まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの

まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの

まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの

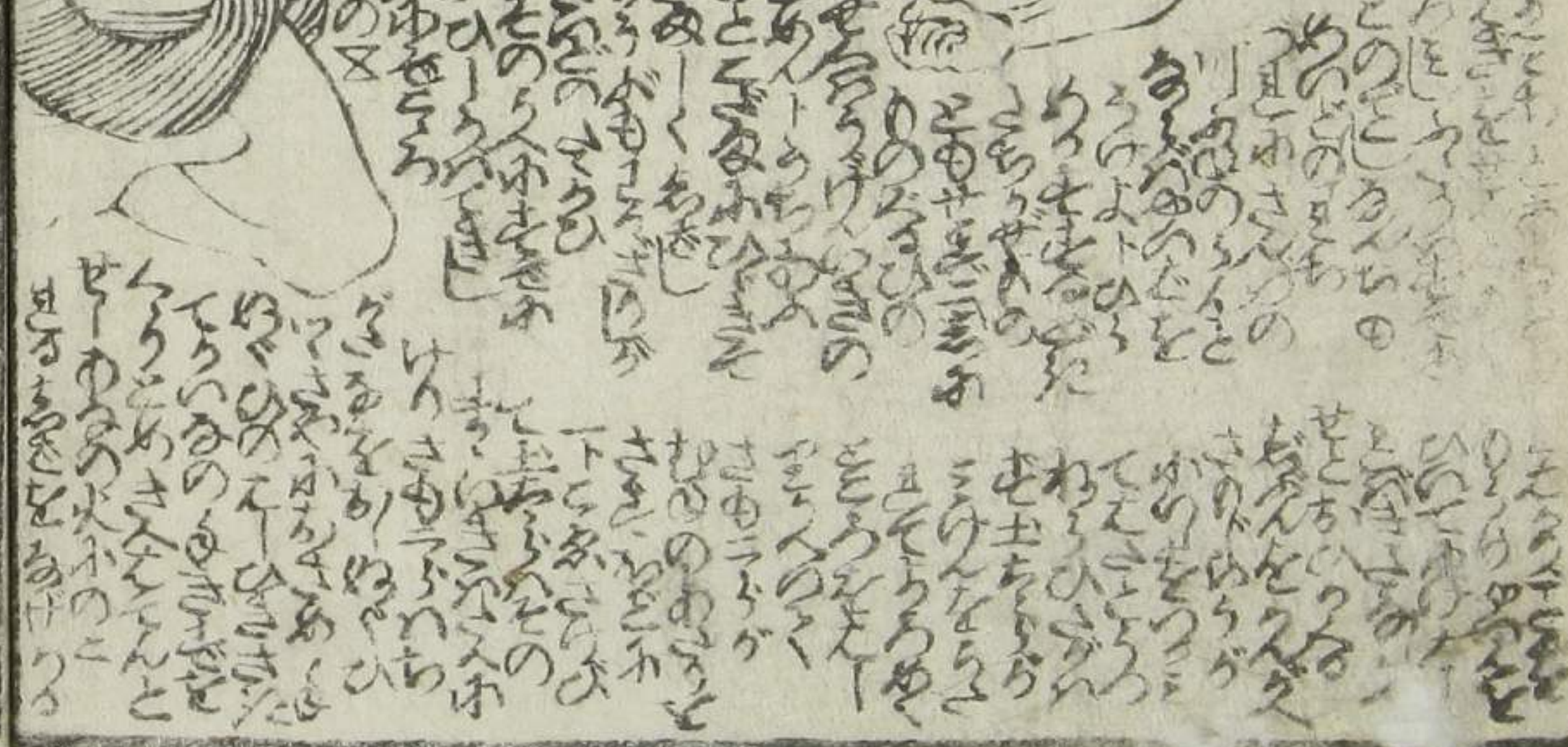
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの
まはるのうしろに
うしろにまはるの



Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary, surrounding the illustration on the left page.



Handwritten text in vertical columns, continuing the narrative or commentary, surrounding the illustration on the right page.



Handwritten text in the upper right section of the right page, written in vertical columns.

Handwritten text in the middle section of the right page, surrounding the upper part of the illustration.



Handwritten text in the lower right section of the right page, below the illustration.

Handwritten text in the upper left section of the left page, written in vertical columns.

Handwritten text in the middle section of the left page, surrounding the upper part of the illustration.



Handwritten text in the lower left section of the left page, below the illustration.

山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志



是ハ悪黨綱乾左母次郎也或秘藏之

山道松の影
練馬場の志

山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志

山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志
山道松の影
練馬場の志



一勇奇國芳

あねとよみ

あねとよみ
八犬傳
六巻ん

萬飾
曼斗



あねとよみ 八犬傳 六巻ん 萬飾 曼斗

あねとよみ 八犬傳 六巻ん 萬飾 曼斗



あねとよみ 八犬傳 六巻ん 萬飾 曼斗

あねとよみ 八犬傳 六巻ん 萬飾 曼斗

